



※書影は帯つきの状態で掲載しています



月の家の人びと

すなぎし
砂岸あろ 著

「杏は鏡を持った手をのぼし、いったん上に高くかかげてから、軽く深呼吸して中をのぞきこみました。」

さつきよりも輝きを増したまるい月が、鏡の上のほうにうつっています。その前に、瞳をきらきらと光らせ、かたくくちびるを結んでいる、一人の女性がうつっていました。≪第四章 月の鏡 より≫

物語を紡ぐ人、砂岸あろ——。美しいもの、純粹な心、ちよっぴり不思議なできごと……。人が見失いがちなものたちにこだわりつづけ、物語を創りつづけてきた著者が、祖母と過ごした「月の家」の思い出を温めながら書き、時を経て幾重のてがかりをも加味して書き上げた長編。≪その家は、(中略)志賀直哉が住み、『山科の記憶』などを書いた家です。それから数年後、私の父方の祖父母一家がその家に移り住みました。≫(著者による「あとがき」より)

【推薦文】

物語を読んでいる間、ずっと月の光に包まれている心地がしました。美しい京都山科文学の誕生です。

—— グレゴリ青山

漫画家。京都在住。著作に『グレさんぼ～猫とかキノノとか京都とか～』（フラワーコミックススペシャル 2020年）『京都深掘りさんぼ』（小学館文庫 2017年）など多数。

【著者】砂岸あろ (すなぎし あろ)

京都市生まれ、京都市在住。京都精華短期大学(当時)で美術を学び、1986年よりアトリエ・ウーフ絵画教室を主宰しながら、少女マンガ原作、児童文学、エッセイなどを書く。「海の方法」同人。著書に『駱駝はまだ眠っている』(かもがわ出版、2005年)、『ほおずきの夜』(白馬社、2007年)、『黄金色の風になって』(上下、講談社青い鳥文庫、2009年)、『せんをひく』(福音館書店こどものとも、2010年)などがある。

2020年12月25日刊行

B6判変型(171×120mm)

並製 288ページ

定価 本体 1,700円+税

ISBN978-4-909819-10-9 C0093

ご注文は JRC へ FAX 03-3294-2177

●すべての取次への出荷が可能です。

●返品は常時お受けいたします(了解者: JRC 後藤)

貴店番線印	ご注文数	発行 エディション・エフ info@editionf.jp	返品条件付き注文扱い	
		月の家の人びと 砂岸あろ 著		
		定価 本体 1,700円+税 ISBN978-4-909819-10-9 C0093		
ご担当:	様	(株)JRC TEL 03-5283-2230 FAX 03-3294-2177		